

仙台市八木山地域を主とした住みよい福祉のまちづくりを目指したプロジェクト

| | |
|-----|---|
| 著者 | 伊藤 美由紀 |
| 雑誌名 | EOS |
| 巻 | 32 |
| 号 | 1 |
| ページ | 87-96 |
| 発行年 | 2020-01-17 |
| URL | http://id.nii.ac.jp/1241/00000180/ |



せんだい創生 COC プロジェクト
〔活動報告〕

仙台市八木山地域を主とした
住みよい福祉のまちづくりを目指したプロジェクト

プロジェクト代表者：伊藤 美由紀¹⁾

プロジェクト参加者：菊地 良寛¹⁾ 中島 敏¹⁾ 畠山 雄豪¹⁾ 中井 周作¹⁾
山口 茂²⁾ 並河 浩一²⁾ 佐藤 隆博³⁾ 須藤 将仁⁴⁾
伊藤研究室所属学生⁵⁾
地域安全安心センター所属学生

プロジェクト連携先：八木山地域包括支援センター 所長 松永なおみ 氏
八木山連合町内会 会長 高橋秋男 氏
八木山地区社会福祉協議会 会長 廣瀬博 氏
仙台八木山防災連絡会 会長 東北工業大学 名誉教授
田中礼治 氏

A project aimed at creating a community of welfare that is mainly
in the Yagiyama area of Sendai City

Abstract

Japan has undergone changes such as an aging population, a declining population, and an increase in single households and nuclear families. We need to support not only families but also neighbors and communities. Since 2018, we have started a welfare town development project using herbs as a tool. When considering the development of a comprehensive community-based welfare community, it is important to understand the awareness and behavior associated with "support among residents". In the future, it will be necessary to consider the support of local residents and experts for support for the elderly, persons with disabilities, and child-rearing families to become autonomous.

-
- 1) 東北工業大学 ライフデザイン学部 安全安心生活デザイン学科
Department of Life Design for Safety and Amenity, Faculty of Life Design, Tohoku Institute of Technology: Teaching Staff
 - 2) 東北工業大学 ライフデザイン学部 安全安心生活デザイン学科 客員研究員
Department of Life Design for Safety and Amenity, Faculty of Life Design, Tohoku Institute of Technology: Visiting researcher
 - 3) 東北工業大学大学院 ライフデザイン学研究科 デザイン工学専攻
Graduate Department of Industrial Design, Graduate School of Life Design, Tohoku Institute of Technology:
 - 4) 東北工業大学 長町キャンパス事務室
Nagamachi Campus an office, Tohoku Institute of Technology
 - 5) 東北工業大学 ライフデザイン学部 安全安心生活デザイン学科 平成30年度（平成31年3月）卒業
Department of Life Design for Safety and Amenity, Faculty of Life Design, Tohoku Institute of Technology: Undergraduate Student

1. はじめに

1.1 地域での包括的な福祉のまちづくりの必要性

超高齢化・少子化が進む我が国は、高齢者は可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、また子どもの成長や教育には家庭や育児教育施設だけでなく地域との関わりが必要であることなど、地域での包括的な福祉のまちづくりが重要とされている。

また文部科学省^[1]は、大学は教育と研究を本来の使命としながら、大学の社会貢献の重要性を強調しており、教育や研究それ自体が長期的観点からの社会貢献であるが、近年では、より直接的な貢献の役割を大学の「第三の使命」とであると述べ、地域が求める人材育成、生涯学習機能や地域社会・経済社会との連携を推進している。

これまで伊藤は、八木山地域では、仙台八木山防災連絡会（2008年設立、菊地と伊藤は幹事、中島は委員を務める）等の地域活動を中心に、個々の健康維持や地域住民間の支えあい（自助・共助）等について活動や調査を実施してきた。また、その八木山地域を中心に「震災時の健康維持のための新たな教育プログラム開発プロジェクト」^[2]（2013年度）、「地域で取り組む非日常時（震災時）の健康維持に関するプロジェクト」^[3]（2014年度）、「地域防災減災支援プロジェクト」^[4]（2015年度）、「地域と大学の協働連携による世代間交流プロジェクト」^[5]（2016年度）、「地域包括ケアシステム構築に向けた医療介護福祉と地域連携」^[6]（2017年度）とCOC事業に取り組んできた。

仙台八木山防災連絡会は、災害時の自助共助、また団体や組織の連携を目的に設立されており、会を重ねるごとに防災を超えた各団体や組織の連携が深まり、活動の幅も広がっている。それらの活動を通し、日常からの取り組み、非常時を見据えた備えや予防、住民と住民、または住民と専門家が連携協力する体制づくりなどが重要であることが明らかとなり、新たな組織や活動につながっている。

1.2 本プロジェクトの目的

そこで本プロジェクトでは、これまでの活動や研究から、住民の地域支えあいに対するニーズや課題を明らかにし、自助や互助を含め地域で支えていくためのネットワーク構築に向けての示唆を得ることを主目的とする。

2. プロジェクトの内容

2.1 仙台八木山防災連絡会での住民の自助共助に向けた活動

仙台八木山防災連絡会医療関連部会は、災害時に自助力共助力を発揮するために、日常的な備えや地域の連携が重要と考え取り組んでいる。また高齢化に関する課題もあるため、八木山市民センターまつりや八木山フェスタにて、仙台赤十字病院や八木山地域包括支援センター、東北文化学園大学等と協力し、地域包括ケアシステム構築に向けたイベントを実施した。また児童生徒などを対象とした防災教育や地域内外に向けた防災推進活動は地域の住民や専門家を協働で取り組んだ。

2.2 八木山まちづくりプロジェクトでの福祉のまちづくり活動

仙台八木山防災連絡会での日常の地域連携や取り組みが減災につながることを受け、日

常的な助け合いに課題を感じたことから、2017年6月に八木山連合町内会、八木山地区社会福祉協議会、八木山地域包括支援センターなどの団体と「八木山まちづくりプロジェクト」を発足した。その中で地域活動を通じて世代間交流を促進し、それぞれの課題を理解し、いざという時に支援行動が取れるよう、「ハーブをツールとした地域連携活動」2018年4月から開始した。この活動では、これまで地域活動に参加する機会が無かった個人や団体などにも参加を呼びかけ、協働で活動する事業とした。講演会を企画、活動に参加するメンバーの登録を募集し、協働栽培の場を整備とハーブの栽培をした。さらに継続的栽培とメンバー間の連携を目指してハーブ里親制度を開始した。

2.3 医療介護連携の会などを通じた専門職の地域参加や地域連携活動

2017年度に発足した八木山地区医療介護連携の会を6月、10月、2月に開催し、地域との連携を求める高齢者施設でのイベントに学生らも運営を支援したり、調査を実施したりした。また団体間の連携の意識するために、各団体を紹介する資料を作成した。

2.4 その他の地域連携推進活動

地域連携推進活動として、幼稚園（保育園）・児童館・適応指導教室・小中学校などの子どもの教育現場、障がい者や障がい者就労支援施設の地域活動の支援や調査を行った。

3. プロジェクトの成果

3.1 仙台八木山防災連絡会での地域住民や専門職との連携に向けて

仙台八木山防災連絡会の医療関連部会では、いざというときに助け合うためには、災害時のみならず日常的に信頼できる関係性を構築しておくことが重要であると考え、認知症の方やその家族を専門家や地域が支援することを示した「認知症ケアパス」、地域での仲間作りを推進する「地域ケアパス」、また自助の必要性を訴える1つの手段として、個人の重要な情報を記載する「安心カード」などを発行してきた。2018年10月13日の八木山市民センターまつりでは、本学科と仙台赤十字病院や八木山地域包括支援センターを中心に、八木山の福祉のまちづくりに向けたイベントを企画実施した。認知症を発症した住民を家族だけではなく近隣住民や専門家が支えるストーリーを寸劇で演じたり、加齢や疾病による身体の変化に対する予防や対処を講和や骨密度測定等から意識するように仕向けたり、地域包括ケアシステムの推進を訴えた。11月3日の八木山フェスタでは、昨年に引き続き東北文化学園大学と連携し、「地域で楽しく暮らしたい」をテーマにイベントを開催した。八木山市民センターを会場に開催内容としては、八木山地域を対象に作成した「認知症ケアパス」紹介と東北文化学園大学の認知機能検査体験を連動させるコーナーや仙台八木山防災連絡会の活動として、非常食や非常時のトイレに関する展示や説明を行った。

幼児・児童・生徒などを対象とした防災教育活動や防災推進活動に地域の住民や専門職を協働で取り組む活動について、6月には八木山南小学校と八木山中学校での防災授業を八木山市民センター、婦人防火クラブ、消防署や消防団などと協力し実施した。8月26日仙台市主催「せんだい防災のひろば2018」では、八木山市民センター、八木山市民センター、八木山地域の小中学生とその家族、消防署や消防団、婦人防火クラブの参画があり大人まで総勢40名を超えるメンバーで八木山オリジナルの「ぼうさいダンス」を実施した。また八木山中学校の1,2年生約300名を対象とした「携帯トイレづくりを指導す

る授業」(8月)には、八木山市民センターや地域住民の方と総勢25名で指導にあたり、「地域防災シンポジウム in 八木山」(12月)では、町内会から多くの子育て世代やシニア世代の参加があり、住民間の世代間交流が見られた。

参画学生のうち高橋以織は、八木山地域のこれらの防災活動への参画から「これからの中学生の防災教育の在り方を考える」の研究に取り組んだ。



図1 八木山南小学校での防災授業



図2 仙台市主催「せんだい防災のひろば2018」



図3 八木山中学校での指導



図4 地域防災シンポジウム in 八木山

3.2 八木山まちづくりプロジェクトでの福祉のまちづくり活動

八木山地域を子育て世代もシニア世代も住みやすい福祉のまちを目指す「八木山まちづくりプロジェクト」(2017年設立)では、2018年4月から仙台市協働まちづくり推進助成事業として申請した「ハーブをツールとした地域連携活動」を行った。これまで地域活動に関心の無かった、または地域活動に参加する機会が無かった個人や団体などにも参加を呼びかけ、まちづくりを協働で取り組む活動を行った。6月、7月、12月にはハーブの栽培法などを紹介する講習会、8月にはハーブを使った料理を作る講習会を企画し、活動に参加するメンバーを募集したところ、小学生から80歳代の方まで約150名の登録があった。一方で7月から10月にかけては、空き家の庭やハーブの協働栽培の場を皆に呼びかけ整備し、ハーブの苗を植えた。また、継続的な栽培とメンバーとの連携を目指して、ハーブ里親制度、ロゴマークの募集、ハーブの活用法の検討を始めた。

参画学生のうち、古内彩香は「仙台市太白区八木山地区における空き家対策活動」、鍛冶場大輔は「青年期から老年期を対象とした社会参加や近隣住民間の支援」、千葉克将は「老若男女での『孤独死』の言葉から連想するイメージ」の研究に取り組んだ。



図5 ハーブ講習会とメンバー募集



図6 ハーブティータイムで交流会



図7 空き家の庭でのハーブ栽培



図8 協働栽培地にてハーブ栽培

2019年2月、八木山ハーブまちづくりのメンバーに対し、活動の参加状況や意見などに関するアンケート調査を行った。150名にメールや郵送で配布回収を行い、回答数は63名であった。

回答者の性別は、男性19名（32%）、女性41名（68%）であった。年齢は、10歳以下1名、10歳代1名、20歳代0名、30歳代0名、40歳代7名、50歳代5名、60歳代11名、70歳代25名、80歳代11名、90歳以上は0名であった。

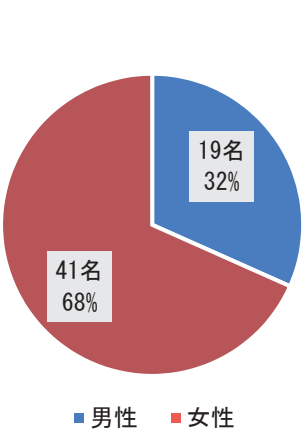


図9 回答者の性別

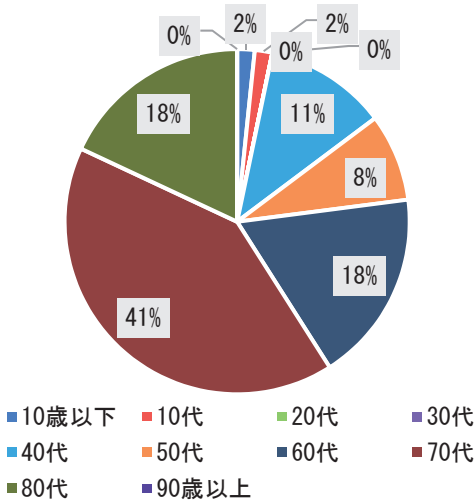


図10 回答者の年齢

「八木山ハーブまちづくり活動で参加した活動」を質問したところ、「栽培法の講習会（6月または7月）」31名、「各家庭でのハーブ栽培」31名、「料理講習会」21名、「ハーブ里親」21名、「冬越し栽培とティータイム（12月）」15名、「城南高校南側のラベンダー植え付け」15名、「集会所や好日庵でのハーブ栽培」12名、「ロゴマークの応募」5名、「ハーブを使った牛乳パック和紙づくり」2名、その他5名であった。

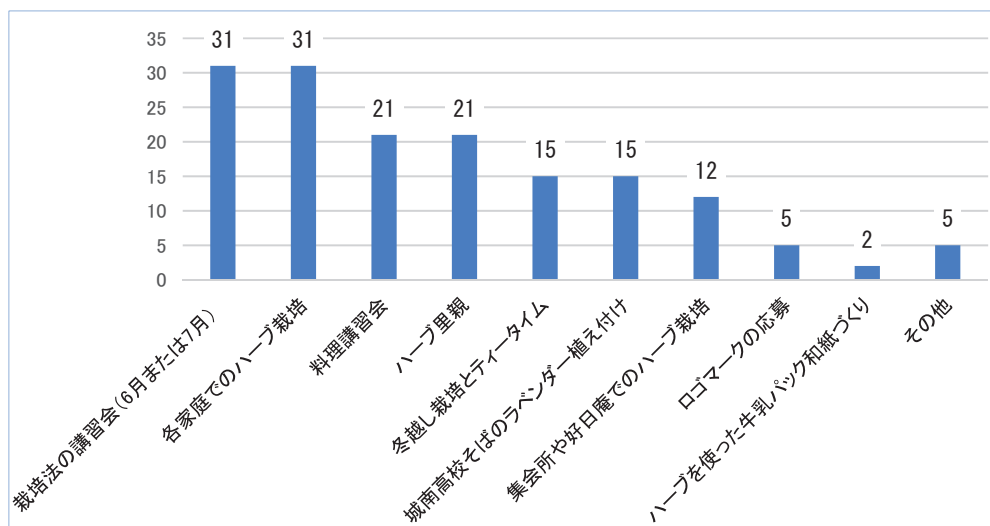


図11 八木山ハーブまちづくりで参加した活動 (n=63)

「ハーブまちづくり活動に参加して変わったこと」の質問には、「ハーブを意識するようになった」48名、「楽しみが増えた」26名、「興味・趣味が増えた」25名、「イベントが気になるようになった」21名、「ハーブを料理に使うことがある」20名、「地域活動を気にするようになった」17名、「外に出る機会が増えた」17名、「知り合いが増えた」11名、「特に変化はない」7名、「お金を使う機会が増えた」6名であった。

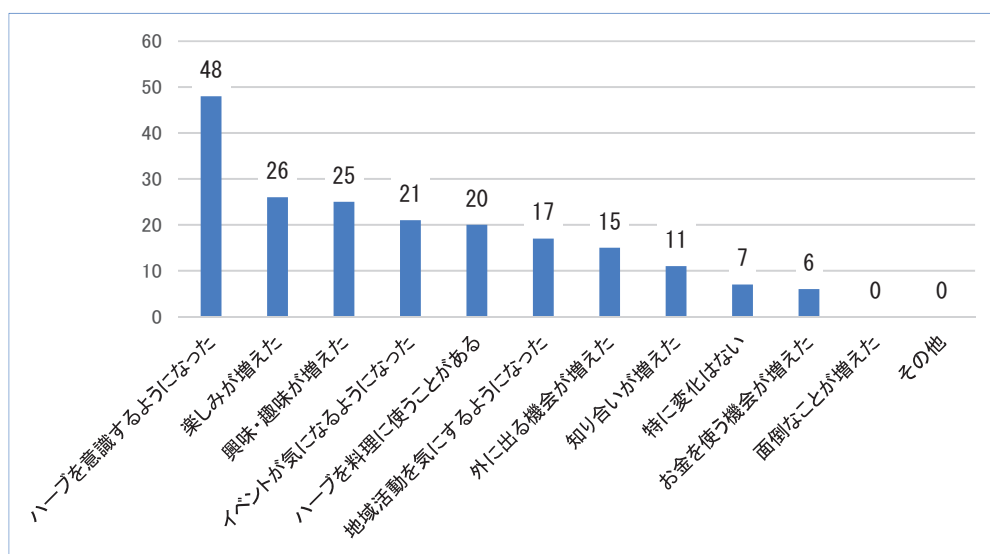


図12 八木山ハーブまちづくりに参加して変わったこと (n=63)

「ハーブまちづくり活動に参加して良かったと思うか」の質問には、「とても思う」は31名54%、「少し思う」は20名（35%）であり、合わせて51名（89%）であった。「どちらともいえない」は5名（9%）,「全く思わない」は1名（2%）であった。

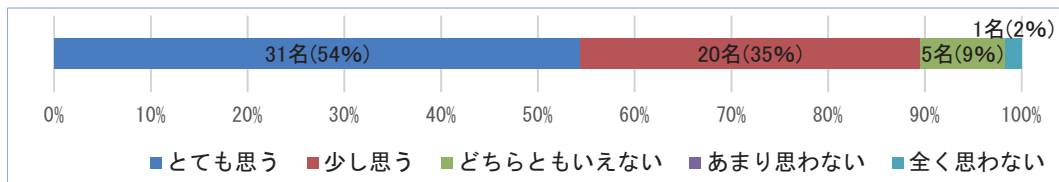


図13 八木山ハーブまちづくりに参加して良かったか（n=63）

ハーブまちづくり活動に関する要望や意見などの自由記載をKJ法を用いて分類した（表1）。

【ハーブの素敵な町にしたい】【ハーブ活動を続けたい】【参加したい・やりたい】【栽培の意識が高まった】【ハーブ活用した】【もっと知りたい】【楽しみ】【企画がありがたい】【企画への要望】【空き地や空き家にハーブを植える】【商品開発と販売】【方向性を示してほしい】【活動が見えていない】【なかなか参加できない・申し訳ない】に分けられた。

【ハーブの素敵な町にしたい】では、「素敵な町にしたいですね」,「押し芽や種等、友人に楽しみ方と一緒に伝え、さし上げたり、こぼれ種から雑草と一緒に芽吹いて町内がハーブと共生出来るといいです」,「地下鉄から地上に出たとき、バスを降りた時、どこからともなくハーブの雰囲気、香り、ハーブなどが感じられる素敵な町になれば良いと思う」などというハーブとまちづくりを連想したり、まちづくりに参加したいという気持ちが伝わってきた。具体的には【ハーブ活動を続けたい】のように活動が持続的であること、料理教室や里親など具体的に参加項目を示す【参加したい・やりたい】もあった。【栽培の意識が高まった】では、「ハーブへの興味は以前より高まり、自宅で地道に栽培しています」,「ハーブは難しいと思っていたのですが講習会を受けてから、とても身近に感じ、育てるのが楽しくなりました」など栽培に意欲を見せる意見もあった。また収穫したハーブを楽しむ【ハーブ活用した】では、「集会所にあるのでサロンで使ってお茶会をしました」「お茶して飲んだりお風呂に入れたりしています」など、自分自身が楽しむためだったり、育てた仲間と一緒に楽しむ様子もあった。またハーブのことを【もっと知りたい】という意見、企画に対して【楽しみ】や【企画がありがたい】との意見もあった。【企画への要望】では、「ティータイムを頻繁にやって欲しい」「年に3回くらいは食事会を開催して欲しい」などのハーブを飲食に活用して皆で楽しむことを提案したり、それが活動に参加しにくかった方を連れ出すきっかけになると提案している方もいた。他にも「ハーブ里親」「出張講習会」「ホームページ上での情報交換」などの提案があった。【空き地や空き家にハーブを植える】【商品開発と販売】もあった。

一方で「どんな風にしたいのか、はっきりしたものがわかると参加しやすい」のように【方向性を示してほしい】,「あまり参加しないので活動自体が良く見えていません」「ハーブへのハードルがまだ高い」「気持ちだけでまだまだついて行けそうにありません」などのような【活動が見えていない】の声もあった。

また【なかなか参加できない・申し訳ない】など、仕事や孫の相手、サークル活動など

の理由で参加できないことや参加できないのを「残念」「申し訳ない」などと表現していることもあった。

表1 ハーブまちづくり活動への要望や意見

| タイトル | 要望や意見 |
|------------------|---|
| ハーブの素敵な町にしたい | 「素敵な町にしたいですね」「押し芽や種等、友人に楽しみ方と一緒に伝え、さし上げたり、こぼれ種から雑草と一緒に芽吹いて町内がハーブと共生出来るといいです」「地下鉄から地上に出たとき、バスを降りた時、どこからともなくハーブの雰囲気、香り、ハーブなどが感じられる素敵な町になれたら良いと思う」「八木山がハーブとして有名になってほしいです」「八木山エリアにハーブがどのように根付くか、少しでもお手伝いできればと思います」 |
| ハーブ活動を続けたい | 「活動を続けたいと思いました」「活動を続けていきたいです」 |
| 参加したい・やりたい | 「今年は料理教室等に参加してみたいです」「ハーブ里親の協力で参加したい」「ハーブの利用を勉強したい」 |
| 栽培の意識が高まった | 「ハーブへの興味は以前より高まり、自宅で地道に栽培しています」「ハーブまちづくり活動に参加してハーブを育てるようになりました」「ハーブは難しいと思っていたのですが講習会を受けてから、とても身近に感じ、育てるのが楽しくなりました」「自宅にあるハーブを見守るだけで精一杯です」 |
| ハーブを活用した | 「集会所にあるのでサロンで使ってお茶会をしました」「お茶して飲んだりお風呂に入れたりしています」 |
| もっと知りたい | 「自宅が集会所のすぐ傍にあり水やりなどでハーブに触れるのが他の人より多いと思いますが、特定のハーブ以外は利用方法がよくわかりません」「すべてが新しく、興味津々です」 |
| 楽しみ | 「城南高校そばや桜木町好日庵のラベンダーの苗が育って花が咲くのが今楽しみです」「ハーブまちづくり活動は楽しいですね」「私は植物に興味があり、ハーブまちづくり活動に喜んで参加させて頂いております」「かみゴムを作るととてもたのしかったです」 |
| 企画がありがたい | 「色々な講習会を企画して頂けることはありがたいです」「色々な企画を考えて頂き感謝です」 |
| 企画への要望 | 「ティータイムをもっと頻繁にやって欲しい」「年に3回くらいは食事会を開催して欲しい」「ハーブ里親は、苗を1つでもプレゼントとされると良いと思いました。」「ハーブを使ったクッキーやお茶で集会(歌ったり、ゲームしたり) 家に閉じこもっている方々を誘い出す」「地域に出向いて頂いてハーブがどんな楽しみ方があるのか教えて頂きたいです」「メンバーとどのように情報交換したら良いのかと考え、HP上でも参加者の情報交換できるスペースがあるとたまに参加の人も次に参加しやすくなるかと思いました」 |
| 空き地や空き家にハーブを植える | 「市民センターの空き地や各町内会の空き地にハーブを植えさせてもらおう。バス停にプランターを置き、ハーブを育てる」「集会所の下の空き地が一年中雑草で覆われています。ハーブ園にどうかと思います」「地下鉄八木山動物公園駅前の駐車場入り口左側・八木山市民センター前のスペースにハーブを植えるのはいかがでしょうか」 |
| 商品開発と販売 | 「ハーブ使用したオリジナル商品の開発と販売が必要ではないかと思います」「ハーブと他の植物との鉢植え作り」 |
| 方向性を示してほしい | 「どんな風にしたいのか、はっきりしたものがわかると参加しやすいと思います」 |
| 活動が見えていない | 「あまり参加しないので活動自体が良く見えていません」「ハーブへのハードルがまだ高い」「まだ入会したばかりです」「気持ちだけでまだまだついて行けそうにありません」 |
| なかなか参加できない・申し訳ない | 「出来るだけ参加させていただきたいと思っているのですが、仕事の関係でなかなか活動できずにいました。申し訳ありません」「なかなか都合が合わず活動には参加できないです」「以後なかなか参加できず申し訳ないです」「去年は予定が重なり参加できないことが多かったです」「仕事をしているので全てのイベントに参加するのが難しいです」「孫が暫くぶりに日帰りで帰仙するので欠席させて頂きます。すみません」「太極拳のため参加できなくて残念です」 |

3.3 医療介護連携の会などを通じた専門職の地域参加や地域連携活動

医療介護連携の会などを通じた専門家の地域参加や地域連携活動への参画を推進する活動としては、八木山地区医療介護連携の会を2018年6月12日、10月16日、2019年2月19日に開催したり、地域との連携を求める高齢者施設でのイベントに学生らも運営を支援したり、調査を実施したりした。団体間の連携の意識するために、各団体を紹介する資料を作成した。

参加した学生のうち、佐々木ゆきは「活動や社会参加を促進する生活期リハビリテーションの現状と課題」、高田紗弓は「高齢者介護における医療介護の現状と課題－八木山地域医療介護連携の会を対象とした調査－」の研究に取り組んだ。



図14 連携の会でのグループワーク



図15 介護施設視察

3.4 その他の地域連携推進活動

地域連携推進活動として、幼稚園（保育園）・児童館・適応指導教室・小中学校などの子どもの教育現場，障がい者や障がい者就労支援施設との地域活動の運営支援などの活動では、今年度から「向山こども園のあかねフェスティバル」に参画し、八木山市民センターで活動するサークル団体や付近の高齢者施設，視覚障害者の障害者福祉サービス事業に参画していただく企画を実施した。また継続的な連携等を検討するために、愛宕地域包括支援センターの協力を経て近隣町内会にも呼びかけ、今後の向山こども園と近隣住民との交流推進も検討することとした。

学生の渡邊太斗は「保育施設の防災に対する取り組みの現状と課題－仙台市太白区の保育園と認定こども園を対象として－」、櫻田潤は「アダプテッドスポーツを取り巻く環境－アダプテッドスポーツの実現を目指して－」、菅野一紀は「保育士の仕事に関する不



図16 イベント打ち合わせ



図17 障がい者のスポーツを体験

満や満足」の研究を行った。

4. まとめと今後の課題

地域での包括的な福祉のまちづくりを考える際には、地域の特徴や地域住民の課題や要望を的確に把握し、継続的に実施できるように取り組まなければならない。それには、個々や団体が持つ「地域住民間の支えあい」についての意識や行動が重要である。今後もこれらの活動を継続し、高齢者や障がい者、子育て世帯などへの生活支援や自律に向けて、地域住民の活動や専門家の支援がどうあるべきか検討していく必要がある。

謝辞

本プロジェクトを進めるにあたり、八木山地域やその地域に関係する皆様、仙台八木山防災連絡会の皆様、八木山連合町内会や八木山地区社会福祉協議会をはじめとする八木山まちづくりプロジェクトの皆様、事務局や幹事などを共に務める八木山地域包括支援センターの皆様、向山こども園の皆様、希望の星の皆様、伊藤研究室の古内彩香さん、鍛冶場大輔さん、千葉克将さん、佐々木ゆきさん、櫻田潤さん、高田紗弓さん、高橋以織さん、渡邊太斗さん、菅野一紀さん、遠藤耀一さん、菊地李花子さんをはじめとする安全安心生活デザイン学科の学生の皆様、多くの方々にご理解とご協力をいただきました。参画して頂いた多くの方々に対し、心から感謝を申し上げます。

参考文献

- [1]. 文部科学省 中央教育審議会 我が国の高等教育の将来像（答申）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05013101.htm
- [2]. 伊藤美由紀 菊地良覚他 震災時の健康維持のための新たな教育プログラム開発プロジェクト 東北工業大学新技術創造センター紀要 EOS Vol.26 No.1 p.75-80 2014.2
- [3]. 伊藤美由紀 菊地良覚他 地域で取り組む非日常時（震災時）の健康維持に関するプロジェクト 東北工業大学地域連携センター紀要 EOS Vol.27 No.1 p.9-20 2015.3
- [4]. 伊藤美由紀 菊地良覚 中島敏 小嶋三男他 地域防災減災支援プロジェクト 東北工業大学地域連携センター紀要 EOS Vol.28 No.1 p.89-98 2015.12
- [5]. 伊藤美由紀 菊地良覚 中島敏 大寺未華他 大学と地域の協働連携による世代間交流プロジェクト 東北工業大学地域連携センター紀要 EOS Vol.30 No.1 p.77-86 2018.3
- [6]. 伊藤美由紀 菊地良覚 中島敏 中井周作 山口茂 佐藤隆博他 地域包括ケアシステム構築に向けた医療介護連携プロジェクト 東北工業大学地域連携センター紀要 EOS Vol.31 No.1 p.37-45 2019

本プロジェクト研究活動助成期間

①地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）の助成により平成30年6月～平成31年3月まで実施したものである